

文教厚生委員会

委員長 窪野愛子

当委員会の本年度のテーマは、「人生100年時代構想を踏まえた地域包括ケアシステムの現状と課題について～ふくしあは、まちの保健室～」です。委員会で協議を重ね、市内5か所のふくしあの視察、WEB de かけがわ議会報告会での市民のみなさまの意見を踏まえ、協議会を開催しました。

協議会の主な意見

◎当局からの意見

当局より、「令和元年度のふくしあの活動への市民の認知度は、よく知っている、少し知っているを合わせて35.3%であり、ふくしあの認知度が低いことは承知している。ふくしあの認知度を上げていかななくてはいけないことを再認識した。今後、しっかり周知していく。」という説明がありました。

◎ふくしあのさらなる機能強化・認知度向上に向けて

- ①市民のみなさまに、ふくしあが「まちの保健室」のような位置づけとして置かれていることの周知徹底（赤ちゃんの相談から、お年寄りまで誰もが気軽に立ち寄ることができ、なんでも相談できる施設）
- ②ふくしあ行政職の適正な人事配置や人材育成が必要
- ③社会福祉士などの専門職の採用が必要



大須賀ふくしあで意見交換



大東ふくしあを視察



中部ふくしあで意見交換



東部ふくしあを視察

◎その他として

- ①人生100年時代を迎え、自助・共助の観点から、各個人が地域の中での結びつきを強め、それぞれの地域住民のみなさまが自分事として捉える機運の醸成を図る施策
- ②市民のみなさまにエンディングノートの有効活用をしていただくように周知する

まとめ

今後、人生100年時代構想を踏まえ「ふくしあ」を中心とした掛川型地域包括ケアシステムを更に充実させ、市民のみなさまが今以上に安全・安心に暮らしていけるよう、委員会で協議を深め、提言となるように取り組んでいきます。